

1

62x

刑法論綱

林董譯

六

60 x

刑法論綱卷之六目次

○ 罪犯豫防法ノ部

序論

○ 直接ノ法制五條
○ 例言 二則

第一葉

第一 害ヲ為スヘキ身體ノ力ヲ除ク

第十葉

第二 惡行ヲ為スノ助ケトナルヘキ知識

第十一葉

ヲ得ルヲ禁スル

○ 出板自由ノ論

第三 罪ヲ犯サント欲スルノ意思ヲ間接

第六葉

ニ豫防スルノ法

○間接豫防
法 十二條

第四 有害ノ欲心ヲ矯メ其心ヲシテ公利

トナルヘキ悦樂ニ傾嚮セシムルヲ

○有害心腸 ○酒欲 ○怠惰
○無害ノ遊戯 七條

第卅葉

己上

刑法論綱卷之六目次終

刑法論綱卷六

第四篇

罪犯豫防法

序論

林董譯

何等ノ學術ニ論ナク其各科中思考ト觀察ノ益
深遠ナランヲ欲シテ之ヲ研覈スルニ自餘ノ
學科ヲ修ムルニ比スレハ殊ニ多クノ歲月ヲ要
スル者アリ例セハ數學ノ如キモ其高等ナル者

ニ至レハ復カニ通常ノ數學ノ上ニ在テ恰カモ殊別ノ學術ナルカ如キ者アリ
 立法ノ術ニ於テモ亦然ル者アリ有害ノ所為ヲ防遏スルニハ何等ノ方ヲ以テス可キヤト問ハバ萬口一談必ス對フルニ之ヲ禁シ而シテ犯ス者ヲ罰スヘシトノ一語ヲ以テセン然レハ則チ此ヲ以テ罪犯ニ備フルノ法ハ至簡至易ニシテ普通ニ用キラル、ノ法ナルカ故ニ之ヲ以テ普通ノ學科ニ比スヘシ其他ノ法ヲ以テ罪犯ヲ防遏スル所以ヲ講究スル者ハ則チ高尚ノ學科ト

為スナリ

此高等ナル學科ハ罪犯ヲ豫防スルニ適當セル制法ヲ求ムルニ在リ即チ其作用ヲシテ人ノ思想上ニ活動セシメ以テ各自ニ惡行ヲ改メ彼等ヲシテ自他共ニ最モ便益ナル方位ニ轉向セシムルニ在リ

第一 刑罰ヲ以テ罪犯ヲ待ツハ直接ノ法制ナリ

第二 豫防法ヲ以テ罪犯ニ備フルハ間接ノ法制ナリ

刑罰ヲ設ケテ禁ヲ犯ス者ニ擬スルモハ直接ニ
 罪犯ヲ待ツノ具ナリ之ヲ豫防スルノ方法ヲ施
 ス者ハ間接ニ罪犯ヲ待ツノ準備ナリ
 直接ノ法制ハ罪犯ノ前面ヨリ進襲スル者ニシ
 テ間接ノ法制ハ其側面ヲ攻撃スル者ナリ請フ
 戦ヲ以テ喻ヘン直接也者ハ開戦ヲ公布シ齊々
 ノ陣ヲ張り肉薄シテ敵城ヲ陥ル、カ如ク間接
 也者ハ敵情ヲ探知シ其離視心ヲ去リ嘗テ己レ
 ニ敵センコトヲ謀リタル者ト遂ニ和親ヲ全フス
 ルノ策ヲ講スル者ノ如シ

世ノ心ヲ政談ニ用ユル者此術ノ一班ヲ窺ヒ知
 リタルハアリト雖モ未タ明瞭ニ其思考ヲ全豹
 ニ及ホセシ者ハアラス若夫直接ノ法制ノ如キ
 ハ其善良ナル部分モ其不良ナル部分ト混合シ
 テ早ク一定ノ制度トナリ既ニ設立セラレタリ
 ト雖モ間接ノ制法ノ如キハ之ヲ徹底研覈セシ
 者無ク其順序ヲ整理シ其彙類ヲ區畫セシ者無
 キヲ以テ全ク新發ノ題目トス
 世ノ政談者流ハ概テ直接ノ法制ヲ以テ己ハヲ
 得サルノ害トシ小害ヲ以テ大害ヲ防ク者トシ

テ之ヲ認可ス然リト雖モ未タ嘗テ熱心ニ之カ
辯論ヲ為ス者アラサルナリ而シテ罪犯ヲ豫防
シ風俗ヲ改良シ品行ヲ純良ナラシムルヲ説
クニ至テハ其思想ノ迫切ナル其氣焰ノ熾盛ナ
ル聽ク所ノ人ヲシテ彼輩ハ恐クハ秘法密術ヲ
用キテマサニ社會ヲ一新スヘシトノ感覺ヲ生
セシムルニ至ル其然ル所以ハ何ソヤ親近ナラ
サル事物ハ思想ヲ廣遠ニ聘セ未タ詳研明究セ
サル所ノ者ハ高尚ナル思慮ヲ為スニ由ルナリ
諺ニ所謂愈遠キ者ハ愈尊シト云フ是ナリ然ル

ニ之ニ反シテ此事ヲ微細ニ研究セハ其効力嘗
テ思想スル所ノ如ク廣且ツ大ナラサルヲ以テ
無限ノ企望心ヲ去リ想像ノ寶貨ヲ失フト雖モ
之ヲ實際ニ施シ得キ幾分ノ實益ヲ確收スル
ノ利アリ 譯者曰ク風俗ヲ改良スル等ノ説ノ如
テ其人世ヲ益スルハ限無カルヘシトノ想
像ヲ起サシム是其事ノ未タ確定セサルカ故ニ
企望モ亦隨テ大ナリ之ヲ研究シテ實際ニ施シ
得ヘキコトノミヲ探擇セハ其企望心ヲ折クト雖
モ亦之ニ代フルニ微小ナリモ實
益アル者ヲ得ルト云ノ意ナリ
直接ノ法制ト間接ノ豫防ト二者ノ品類ヲ詳カ
ニセシニハ直接ノ法制トハ如何ナル者ナリヤ

ヲ知ルヲ必要トス其直接ノ法制トハ左ノ次序
 ヲ以テ成ル者ナリ
 第一罪犯ト認ム可キ所為ヲ撰定スル
 第二諸種ノ罪犯ヲ詳明ニ類別スル
 例ハハ
 殺人、偷盜、私贓、公金等ノ如キ是ナリ
 第三是等ノ所為ヲ以テ罪犯ト為ス所以ノ理ヲ
 詳明スル
 但シ利論ニ由テ其理ヲ詳明ス故
 ニ彼此矛盾シ前後撞着スルヲ無キヲ要ス
 第四各罪犯ノ為メニ充分ナル刑罰ヲ設クル
 第五是等ノ刑罰ヲ要用トスル所以ノ理ヲ詳明

スル

刑典也者ハ務メテ完全ヲ求ムト雖氏猶ホ多少
 ノ闕躰アルヲ免カレズ第一ニ先ツ害惡ノ既ニ
 存スル者アラサルヨリハ治罪ノ法ヲ施ス能ハ
 ス治罪法トハ即チ刑罰ヲ加フルトニテ罪惡ヲ
 行フ者ニ非レハ刑罰ヲ加フルトヲ得サルハ勿
 論ナリ故ニ刑罰ヲ加フル毎ニ其効用充分ナラ
 スシテ唯多少ノ危険ト危懼ヲ人心ニ留存スル
 ノ證據ヲ呈スル一ノ犯者ヲ罰スル後チ亦犯者ア
 ノ者アルナリ故ニ人心ニ危懼ト危險トヲ留存
 スルナリ第二刑罰ハ其害ヲ

防クカ為メニ必用ナリト雖其刑罰也者モ亦
 既ニ一ノ害ナリ刑罰ハ之ヲ施行スルノ間逐次
 ニ害ヲ行フ者ナリ先ツ法律ヲ以テ人ヲ檢束シ
 警嚇スルノ害アリ罪ノ有無ヲ區別スル為メニ
 被告ヲ審問スルヨリ生スル害アリ處刑ヲ決行
 スルヨリ起ル害アリ是等ソトヨリシテ己ムヲ
 得ス患ヲ無辜ニ及ホスノ害アリ第三刑典ハ有
 害ノ所為ノ毎々之レアル者隱隱シ易キ者其有
 害タル所以ヲ確然豫定シ難キ者或ハ公衆ノ謬
 見ニ依テ却テ之ヲ認可スル者等ニ及ホスル能

ハス其行ハルノ區域ニ限リアリテ其威力タ
 ル犯罪ノ確證ヲ得可キ者ヲ除クノ外ハ之ヲ施
 スル能ハサルモノナリ

刑法ニハ是等ノ闕漏アルヲ以テノ故ニ之ヲ填
 補スル為メニ新法ヲ檢出スルヲ要ス其新法ト
 ハ何ソ即チ有害ノ所為ヲ施スニ必要ナル智謀
 ヲ得ルヲ妨ケ或ハ之ヲ行フノ體力若クハ志
 念ヲ除去スルヲ依テ罪犯ヲ豫防スル者はナ
 リ此方法タル概子惡道ニ引誘スル所以ノ者ヲ
 去テ善行ヲ勸奨スル所以ノ者ヲ感シニシテ

人ノ意嚮ヲシテ方正ナラシムルノ方法ヲ用ユ
 故ニ間接ノ豫防法ハ刑罰ノ性質ヲ有セス其作
 用ヲ人心上ニ及ホシクシテ法律ヲ遵守セシ
 メ惡ニ誘ハル、ノ路ヲ杜絶シ人々各自ノ意嚮
 ト智識トニ依テ自ラ其心ヲ制馭シテ其放心ヲ
 收メシムルノ法ナリ
 此間接豫防法ノ性質タル特ニ寛優ナルノ利益
 アルノミナラス直接法ノ効ヲ奏スルヲ能ハサ
 ルノ際會ニ於テ能ク効ヲ奏スルノ便宜アリ例
 ヘハ中古以來ノ歴史家ハ耶蘇新教ノ世ニ行ハ

レシヨリシテ大ニ羅馬宗ノ弊風ヲ除去セル
 ヲ説ク是法王ト其贊參僧會ノ嚴命ヲ以テ成ス
 ヲ得サリシ積弊蕩除ノ事モ新教ナル兢争者ノ
 起リシカ為メニ容易ニ改良ノ功驗ヲ見ルヲ得
 ルニ至リシナリ蓋シ争兢者ノ為メニ嘲笑セラ
 ルヘキ醜惡ノ所行ヲハ敢テ為サズ恒子ニ自ラ
 戒慎スル所アルニ由ルナリ是則チ僧侶ノ品行
 ヲ矯正スルニ就テ自由ノ争兢力ハ儼然タル法
 律ニ比スレハ却テ其効ヲ著ハストノ大ニシテ
 且ツ速カナルヲ證スルニ足レリ

又經濟術ニ由テ一例ヲ掲ケハ法律ヲ以テ物價ヲ低下シ就中利子ヲ低下スルノ策ハ古來屢施行スル所ナリ物價及ヒ金利ノ貴キカ為ノニ生スル害ハ之カ為ニ人ノ快樂ヲ得ルヲ妨礙スルカ故ニ唯其妨礙セラル、所ノ快樂ノ度ニ比較シテ害アリトス然ルニ其害ヲ除クニハ其價格ヲ減殺スルヲ以テ得策ナリトシテ諸種ノ禁法ヲ設ケテ物價若クハ利子ヲ制限ス而シテ其結果ハ果シテ何シ或ハ之ヲ制限スルノ甚キハ法ヲ破ル者愈多クシテ刑罰滋繁キニ至リ其

害ハ依然トシテ減殺セサルノミナラス却テ増殖スルニ至ル者アリ抑モ此害ヲ防カント欲セハ實ニ間接ノ一法アルノミ然ルニ何國ノ政府ト雖此間接法ヲ用ユルカ為メニ充分ノ識見アル者幾ント希ナリ其間接法也者トハ何ソヤ商估ノ財主ト自由ニ爭競スルノ權ヲ許シ互ニ其智略ヲ戰ハストテ誨エ各自ニ價格若クハ利子ヲ低下シテ利ヲ需用者ニ與ヘ以テ己レカ顧客タラシムルヲ勉メシムルヲ云フ夫レ自由ノ競爭ハ到底精良ナル物品ヲ鬻ハニ低價ヲ

以テスル者ニ褒賞ヲ與フルト同一ノ効驗ヲ為
 ス者ナリ此の切ナル自然ノ褒賞ハ爭競者各自
 ニ先ツ之ヲ占得セント欲スルカ故ニ人々各々
 免ヌカル、一ヲ僥倖シテ耻チナキ所ノ刑罪ニ
 比スレハ其効ヲ奏スルト多カル可キハ固ヨリ
 言ヲ誤タス

今是等ノ間接法ヲ論スル前ニ於テ豫メ看者ニ
 告クヘキ言アリ即チ本篇中諸法ノ彙類ヲ殊別
 セルハ撰者ノ專見ヲ以テ為セシ者ナルカ故ニ
 此種類中ニ加シヨリハ寧口彼種類中ニ攝ムル

ヲ以テ適當トスヘキ者モ亦多カルヘシ若シ明
 カニ此區別ヲ判断セントスルニハ精細ナル性
 理上ノ分析ヲ為サルヲ得サルヲ以テ頗ル其
 煩ヲ憚カル故ニ今ハ唯諸種ノ間接法悉ク何レ
 ノ種類中ニカ攝在スレハ足レリトシ唯立法家
 カ其由来スル所ノ主要ナル根源ニ着意スル
 ヲ希望スルノミ

并セテ言フ本篇中種々ノ方法ヲ説明スル中ニ
 就テ某々ノ法ハ其國ニ適當スヘキ者ナリト定
 ノタル者ナレシ況ヤ一般ニ何等ノ政府ニテモ之

ヲ施用シテ適當ナリトス可キ者ニ於テヤ固ヨリ之アルヘキニ非ス各種ノ方法固有ノ利便ハ各其條下ニ於テ説示スト雖氏時ト處ノ事情ニ就テマシ各不便ナキ能ハス是等ハ機ニ臨ミ變ニ應シテ其事情ヲ審カニセサレハ豫ノ之カ便否ヲ確定シ難シ故ニ本篇ニ於テ論スル所ノ主旨ハ是等ノ法ヲ薦ノテ直チニ施行センコトヲ要スルニハ非ス唯是等ノ方法アルコトヲ知ラレノ其適當ナル際會ニ於テ適宜ナリト認ムル者ヲ商量シ斟酌シテ以テ實際ニ準擬シ施用スル

コトハ之ヲ專務トスル所ノ人ニ一任ス

第一章

害ヲ為スヘキ身體ノカヲ除ク

惡行ヲ為サント欲スルノ志ト之ヲ為スノ方法ヲ知ルノ智ト其方法ヲ行爲スルノカト共ニ存スルキハ其惡行ヲ果シ遂クルコト必セリ故ニ志念ト智識ト體カトノ三者ハ法律ノ宜ク之ヲ制馭シテ以テ人ノ行ヲ正スヘキ者ナリ抑モ此三者ハ法ノ間接ト直接トニ論無ク凡ヘテ制法ノ目的トナスヘキ者ハ此外ニ出テス

先ツ體カヨリ論出スヘシ何トナレハ體カヲ用
 エルノ方ハ簡短ニシテ定限アルヲ以テナリ且
 ツ此カノミヲ用ユル際會ニ於テハ之ヲ除却ス
 ルヲ得ハ則チ必ス豫防ノ目的ヲ達スヘケレハ
 ナリ
 カハ之ヲ分テ二種トス其一ヲ自カトシ其二ヲ
 他カトス自カトハ其人自家所有ノカヲ云フ他
 カトハ其人自家ヲ除クノ外他ノ人若クハ物ニ
 屬スルカニシテ惡行ヲ為スニ方テ之カカヲ假
 ラサルヲ得サル者ヲ云フ

自カハ各人所有ノカニシテ之ヲ奪將シテ利ア
 ルヲ能ハス何トナレハ惡ヲ為スノカハ則チ善
 ヲ為スノカニシテ惡ヲ防カンカ為メニ其カヲ
 奪フキハ復タ能ク善ヲ為スヲ得サルニ至ル人
 ノ手ヲ截斷セハ此人盜ムヲ能ハスト雖モ復生
 計ヲ營ムコトヲモ為シ得サル者ナリ
 且夫如此ノ方法ハ太タ慘酷ナルカ故ニ既ニ有
 罪ト判決セル罪人ニ非サレハ之ヲ施ス可カラ
 ス豫防ノ為ニ施スヘキ奪力法ハ唯一禁錮法ア
 ルノ三

奸人カ資テ以テ惡行ヲ為スヘキ物體ニ着意セ
 ハ大ニ罪犯ヲ豫防スルノ助ケヲ得ヘシ
 タシトス 羅馬ノ歴史家カ所謂惡念ヲ激スル物ヲ奪却
 スルニ依テ害ヲ為スノカヲ除去シ得ルノ間之
 レアリ惡心ヲ激スル者トハ則チ惡行ヲ為スノ
 器具ヲ云是立法家ノ所為ノ保姆ニ類スル者ナ
 リ窓ニ格子ヲ作り爐邊ニ小欄ヲ設ケ稚児ヲシ
 テ利刀ヲ弄セシメサル者ト彼贖金ヲ作ルニ用
 エル器械毒藥兵器ノ秘シ易キ物骰子ノ如キ禁
 制ノ賭博ニ用ユル器械野獸ヲ偷盜スル為ノ網

罍等ヲ製造販賣スルヲ禁スルトハ其事殊ナリ
 ト雖氏之ニ由テ生スル所ノ害ヲ豫防スルノ意
 趣ハ一ナリ 譯者曰ク英國ノ野獸ハ諸侯及ヒ豪
 中ニ於テ牧畜スルカニニ狩
 スルハ法律ノ禁スル所ナリ
 馬哈黑ハ人ノ理性ノミヲ以テハ其情ヲ矯ムル
 一能ハサルヲ信シ一ニ酒ノタメニ諸惡ヲ發ス
 ルノ害ヲ除却センヲ計カレリ 回教ニハ飲酒
 ノ禁戒ヲ重シ
 ス暖熱ナル氣候ノ國ニ於テ酒ハ人ヲシテ昏醉
 セシメス却テ其性ヲ激シテ猛烈ト為ス故ニ飲
 酒ヲ許シテ之カタメニ種々ノ罪ヲ犯サシメ從

テ刑罰ノ繁多ナランヨリハ寧口全ク飲酒ヲ禁
 スルヲ以テ仁慈ノ措置ト為スヘキナリ
 酒類ニ稅ヲ課スルハ稍前ト同様ナル目的ヲ
 達スル者トス其價直ハ稅アルカ為メニ騰貴シ
 テ貧者ノ力之ヲ賒ルニ足ラサルハ自ラ醉ニ
 乘シテ放縱蕩逸ニ陥ルノ路ヲ絶ツ者ナルヲ以
 テナリ
 奢侈ヲ禁スルノ法令中立法家ノ不可ト認ムル
 物品ヲ輸入スルヲ禁スル者ハ此條下ニ攝サ
 ムヘキノ豫防法トススバ斯ス巴バ爾ル達ダ往昔希臘ノ國法

ノ有名ナルハ即チ此法ヲ用キタル故ニシテ金
 銀ノ輸入ヲ禁シ外國人ノ歸化スルヲ禁シ内國
 人ノ他邦ニ旅行スルヲ禁シタリ
 ゼ子バニテハ金剛石ヲ飾具トシテ用エルヲ
 禁シ一個人ノ蓄養スル乘馬ノ數ヲ制限スルノ
 法アリ

本文引用スル所ノ例ハ之ヲ以テ制法ノ模範
 ト為スニハ非ス唯如此ノ法ハ何等ノ種類ニ
 屬スヘキ者ナルヤヲ示ス為メノミ

英國ニ行ハル、賣酒ノ法令種々アリ皆此種類

ノ豫防法ニ屬ス則チ露肆ニ於テ酒ヲ賣ルヲ禁
レ賣酒ヲ營業ハ必ス免許ヲ請ヒ免許税ヲ納ル
ヲ要シ日曜日ニ於テ遊戯場ヲ開クヲ禁スル等
ニナ此法ニ屬ス
又讒謗ニ互リ若クハ人ヲ煽動スルトニ係ル所
ノ書籍猥褻ノ畫圖ヲ市ニ鬻ク者ハ之ヲ沒取シ
而シテ毀滅スル等渾テ有害ノ書畫ヲ出版シ發
賣スルヲ禁スルモ亦此種類ニ屬ス
巴黎斯ノ古法ハ奴僕ノ劍ヲ帶ヒ杖ヲ携フルト
ヲ禁シタリ是位階ノ區別ヲ明カニセンカ為メ

ナリトハ雖氏蓋シ保安ノ効有リシト少ナカラ
ス
一班ノ民族カ主治者ノ為メニ龐制セララル、ヤ
人民ノ武器ヲ携帶スルトヲ禁スルハ蓋シ術智
アルノ所為ト謂フヘシ既ニ龐制ナル大害スラ
敢テ為スルハ這個ノ小害ヲ顧ミルニ暇アラサ
レハナリフイリス往昔地中海東北ノ海
岸ニ在リシ國民ナリ
創世記第十章ハ猶太人カ斧鎌ヲ磨セントスル
モ自カラ之ヲ磨スルトヲ許サス必スフイリス
タイン人自カラ一々之ヲ磨シ與ヘタリ又支那

ニ於テハ武器ヲ製造シ若クハ販賣スルノ業ハ
 鞣靴人ニ非レハ之ヲ許サス
 英國ヂオルジ三世ノ法ニ本業トスル商估ヲ除
 ハノ外何人ニ限ラヌ五十斤以上ノ火藥ヲ其家
 ニ貯蔵スルヲ禁シ火藥商ト雖モ二百斤以上
 ヲ貯蔵スルヲ禁ス其禁ヲ設タルノ理由ハ破
 裂ノ害ヲ妨カンカタメナリ市門路上ニ設立シ
 橋路錢ニ取立テル恰モ水邦同シ監督ノ法ニ官用ノ大砲
 彈藥ヲ載セタル者及ヒ特許ヲ得タル運搬品ニ
 非ルヨリハ八馬ニ駕スルノ車ヲ以テ際限トス

其然ル所以ハ道路ヲ毀損センヲ恐ル、カ為
 メナリ是等ノ法ハ其理由ト為ス者ノ外ニ政治
 上ニ關係スルノ理由アリヤ否ヤハ予之ヲ明言
 スル能ハスト雖モ其謀叛ノ道ヲ妨ケ容賣ヲ遏
 ムルニ効アリシトハ疑ヲ容レヌ
 此種類ノ法ノ中ニ就テ銀行紙幣ヲ盗ムトヲ防
 クカ為メニ英國ニ恒子ニ行ハル法ノ如ク簡ニ
 シテ良ナル者ハ未タ之レアラス即チ紙幣ヲ郵
 便若クハ人ニ托シテ遠方ニ送致スルキハ之ヲ
 兩斷シ封ヲ異ニシテ兩度ニ送ル者是ナリ紙幣

ノ半片ヲ盜ムモ益ナク兩片ヲ盜ンテ相符合セ
 シムルハ太夕容易ナラサルカ故ニ盜ヲ行フ
 能ハサレハナリ
 人ノ職業ニ由テハ其材能善ク之ヲ行フニ適當
 スル證據アラサルヨリハ敢テ之ヲ行フヲ許
 サル者アリマタ二個ノ職業ヲ兼ヌルヲ禁
 スルノ法アリ英國ニ於テハ裁判所ニ奉職スル
 者ノ代言人タルヲ許サス左手ヲ以テ竊カニ
 右手ノ事ヲ援クルヲ恐ル、カ為メナリ是ハ一
 業ヲ營ミツ、暗ニ他方
 ノ應援ヲ為スヲ云フ

海陸軍ノ軍須ヲ供給スヘキ約束ヲ為シタル商
 估ハ議員ニ選舉セラル、トテ許サス然ル所以
 ハ若シ此輩違約ノ條件アリテ議院ノ審査ヲ要
 スルヲアルニ方テ其人ニシテ議員タル中ハ自
 身ニ自己ノ裁判官タルノ弊アレハナリ又其弊
 ノ之ヨリ大ナル者アリ曰ク之カ為メニ官吏ノ
 威權ヲ増スノ憂アリ此輩ハ官吏ノ意ヲ奉承ス
 我國從來ノ御用達ノ如キ者ナリ若シ議員トナ
 リテ官吏ノ所為ヲ贊成スレハ官吏ノ威權増多
 スルヲ云フ

第二章

惡行ヲ為スノ助ケトナルヘキ智識ヲ得ルヲ禁スル

此書ニ記スルニ如此禁法ヲ以テスル所以ハ其良法ニ非ルヲ明示センカ為メナリ出版書類ノ草稿ヲ検査シ監察スルノ制度及ヒイソクウヂレヨシムル異教ヲ信スル者ヲ強迫シテ改宗セシメ大ニ弊害ヲノ如キハ此是等ノ智識ヲ得ルヲ為セシ者ナリノ如キハ此是等ノ智識ヲ得ルヲ禁スル主意ヨリ發生スル者ニシテ如此法度ノ行ハルヤ國風民俗ヲシテ殘忍刻薄ニ至ラサラシムル者ハ未タ嘗テ之レアラズ

余ハマサニ此章ニ於テ第一ニ智識ノ民間ニ廣布スル者ハ其全局上ヨリ觀ルキハ決シテ害アル者ニ非ル所以ト有識者ノ犯ス所ノ罪ハ無智ナル人ノ為ス者ニ比スレハ醜惡ナラサル所以トヲ明示シ第二ニ智識ノ淺薄ナルヨリ生スルノ害ヲ防クニハ其智識ヲシテ増進セシムルヲ以テ最良至美ノ法ト為ス所以ヲ説明セント欲ス

第一智識ノ社會ニ廣布スルヲハ全局上ヨリ觀ルニ決シテ害アル者ニ非ルナリ或論者ハ人ノ

知識愈狭小ナルハ其身愈安樂ナリト謂ヘル
ハ蓋シ知識ノ狭小ナル者ハ惡意ノ生スヘキ誘
惑物ノ在ルアルヲ知ラス惡行ヲ犯スヘキ方法
ヲ辨知セスト思惟スルニ由ルナリ空想者カ如
此思惟ヲ為スハ亦深ク惟ムニ足ラス何トナレ
ハ實用ニ供スヘキ事物ヲ明白ニ知ルノ知識ト
架空ナル事物ヲ想像上ニ幻顯スルノ知識トハ
其相同シカラサル雲壤ノ如シ而シテ空想者ノ
貴フ所ハ捕風捉影ノ知識ナルヲ以テナリ然リ
ト雖正世人多クハ知識ヲ横ムルヲ認メテ危険

ト為スノ意見ニ左袒シ人民ノ無智無學ナリシ
往昔ノ時代ヲ追懷欽慕シテ之ヲ稱讚シ黄金世
界ト呼フ如此意見ノ誤謬ナル所以ヲ明カニ指
摘センニハ罪犯ヨリ生スル害ノ多寡ヲ參較ス
ルノ方法ヲ詳示セサルヲ得ス

有識者カ犯ス所ノ罪ハ無智ノ人ノ犯ス所ニ比
スレハ憎忌スヘキ性相アリトハ論ヲ誤タス抑
モ罪犯ノ大小輕重ヲ較量スルニ利論ノ主旨ヲ
以テ規準トセシテ忌嫌主義ニ依テ之ヲ算計
シ忌嫌主義トハ原語「パリン」オフ、アンチ
パリン」ト云則チ偏愛主義原語「アリ」ニシテ

オ、人、シ、ム、ハ、レ、ト、并、行、ハ、ル、者、ナ、リ、之、ヲ、忌、嫌、シ、之、ヲ、備、愛、ス、ル、ニ、已、レ、ノ、心、ニ、任、セ、テ、他、ニ、確、乎、タル、標、準、アリ、テ、裁、断、ス、ル、ニ、非、ス、凡、ソ、良、智、ヲ、説ク、者、道、心、ヲ、論、ス、ル、者、ニ、ナ、ル、此、主、義、ヲ、主、張、ス、ル、者ト、ス、其、詳、細、ノ、一、ノ、如、キ、ハ、立、テ、以、テ、罪、犯、ヲ、觀、ル、法、論、綱、目、第、三、章、第、一、節、ニ、出、ツ、テ、以、テ、罪、犯、ヲ、觀、ル、ト、ハ、其、犯、者、ノ、性、質、ノ、邪、惡、ナル、ヲ、ヲ、ノ、ミ、見、テ、他、事、ヲ、顧、ミ、ス、故、ニ、利、論、ノ、主、義、ニ、依、テ、其、罪、犯、ヲ、查、驗、ス、ル、ト、ヲ、以、テ、太、夕、疎、漫、ナ、リ、ト、ス、去、レ、ハ、罪、犯、ノ、情、智、識、アル、人、ノ、所、為、タル、ノ、徵、證、アレ、ハ、則、チ、該、犯、ハ、思、慮、アル、人、ニ、シ、テ、思、慮、アリ、ツ、罪、ヲ、犯、ス、ハ、是、其、人、タル、性、質、ノ、邪、惡、ナル、ノ、證、ナ、リ、ト、ス、而、レ、テ、利、論、ノ、主、義、ニ、由、レ、ハ、其、罪、犯、ヨ、リ、生、ス、ル

ノ、害、ハ、犯、者、カ、性、質、ノ、邪、惡、ナル、ト、ノ、ミ、ヲ、以、テ、其、輕、重、大、小、ヲ、算、セ、ス、併、セ、テ、其、罪、犯、ヨ、リ、生、ス、ル、ノ、害、ヲ、他、ノ、之、ヲ、被、ル、多、寡、ト、及、ヒ、一、般、ノ、社、會、ニ、波、及、ス、ル、危、懼、心、ノ、有、無、ヲ、以、テ、之、ヲ、算、ス、該、犯、カ、邪、惡、ナル、性、質、ヲ、現、ハ、ス、ハ、唯、其、罪、ヲ、增、加、ス、ル、ノ、ミ、ニ、シ、テ、之、ヲ、以、テ、特、ニ、害、ノ、太、甚、シ、キ、者、ナ、リ、ト、斷、定、ス、ヘ、キ、ニ、非、ル、ナ、リ、凡、ソ、罪、犯、ノ、最、モ、重、大、ナル、者、ハ、深、遠、ナル、智、識、ヲ、要、セ、ス、シ、テ、為、ス、ヲ、得、ヘ、シ、無、智、蒙、昧、ナル、者、ト、雖、モ、最、モ、重、キ、罪、ヲ、犯、ス、ニ、足、ル、ヘ、キ、ノ、智、ヲ、具、フ、ル

者ナリ堤防ヲ崩潰シ江河ヲ決シ漲水ヲシテ田
 圃ニ氾濫タラシムルノ罪ハ放火ヨリ重ク放火
 ハ殺人ヨリ重ク殺人ハ強盜ヨリ重ク強盜ハ竊
 盜ヨリ重シ此等ノ輕重ヲ計ルニ被害者ノ數ト
 害ノ大小トヲ以テスレハ恰モ算術ヲ以テ物ヲ
 測カルカ如ク明詳ニ之ヲ計量スルヲ得ヘシ
 而シテ此等ノ罪ヲ犯スニハ何等ノ智識ヲ要ス
 ルヤ野蠻ノ情態ヲ脫離セサル無智ノ民ト雖モ
 猶ホ能ク之ヲ為スヲ得ヘシ
 強盜ヲ以テ誘惑人ヲ欺ヒテ惡ニ誘導スル誘導スルト誘導スル竊盜ニ比スレハ

其罪重シ然リ而シテ強盜ハ人民ノ無智ナル時
 ニ多ク誘惑誘惑竊盜ハ智識漸ク開クルノ後ニ多シ
 智識ノ廣布セルニ由テ罪犯ノ種類ヲ増サス之
 ヲ犯スノ便宜ヲモ益サス唯之ヲ犯スノ方法ヲ
 變シタルノミ而シテ其變シタル所ハ多害ノ方
 法ニ代ユルニ小害ノ法ヲ以テセル者ナリ
 假令ハ今偷盜ヲ行フ新法ヲ發明スル者アリ初
 ノニハ此發明ニ由テ利益ヲ得ルモ久シカラズ
 シテ其秘術ハ人ノ察知スル所トナリテ之ヲ防
 禦スルノ方便ヲ為ス盜ム者ハ又更ニ新法ヲ發

明スルヲ要ス然ルニ其新法モ亦幾クモ無クシ
 テ人ノ曉悟スル所トナル如此其術策ハ屢變換
 スト雖其目的タルヤ到底偷盜ヲ果シ遂クル
 ノ外ニ出ス而シテ強盜ニ比スレハ其罪輕ク強
 盜ハ亦黨類ヲ嘯集シ隊伍ヲ組ミ兇器ヲ弄シテ
 公然掠略ヲ恣ニスル者ニ比スレハ其罪輕シ如
 此罪惡ノ輕重ヲ為ス所以ノ者ハ何ソヤ蓋シ公
 衆カ自己ノ才智ト注意トヲ以テ竊盜ヲ防クハ
 強盜ヲ防クヨリ易ク強盜ヲ防クハ徒黨ヲ結ヒ
 兇器ヲ弄スルノ掠奪者ヲ防クヨリ易ク隨テ危

懼心ヲ生スルノ度ニ大小ノ差異アレハナリ
 本文竊盜、強盜、劫掠ノ三者ヲ比較スル者ハ其
 掠奪スル所ノ財ハミナ同量ナル者ニシテ損
 害ノ量モ亦相均シキ者ト假定シテ論スル者
 ニ係ル何トナレハ時トシテハ偷盜ノ害強盜
 ヨリ多キアリ騙詐ニ由テ得ル所ノ贓物ハ途
 上劫ヲ行フ者ヨリモ多キトアレハナリ
 試ニニ或論者ニ一歩ヲ讓リ邪惡ナル人ハ物ト
 シテ惡ヲ為スノ資トナサ、ルヲ無キ恰モ彼盜
 跖カ銘ヲ見ルト一般ナルカ故ニ智識益長スル

其ハ則チ惡ヲ為スノ資モ亦從テ多カラサルヲ
 得サル者トセン
 今日ノ善者ト惡人トヲ分別スルト猶ホ鷲ト鴉
 トヲ區別スルカ如ク判然ナルトヲ得ハ善者ノ
 智識ヲ進メ惡者ヲシテ愚蒙ナラシムルトヲ得
 ヘシト雖モ此二者ハ元來分判シ得ヘキ者ニ非
 ルノミナラス一個人ニシテ或ハ善トナリ或ハ
 惡トナル者ナリ然ハ則チ二者共ニ一樣ノ接待
 ヲ為サ、ルヲ得ス即チ一般ニ智識ヲ進メサレ
 ハ則チ一般ニ愚昧ナラシムルノ外中道ヲ取ル

ノ術アルトナシ
 然リ而シテ論者カ憂フル所ノ害ハ自家治復ノ
 法ヲ固有スルノ害タリ智識ヲ以テ惡ヲ行フノ
 資ト為シ惡人ノ之カ為メニ利益ヲ得ル者ハ惡
 人カ特ニ智識ヲ專有スルニ非レハ以テ然ルト
 能ハス最モ無智ノ蠻民ト雖モ猶ホ箭鏃ニ毒藥
 ヲ塗ルトヲ知ル唯國人ノ智識一般ニ進ミタル
 ニ由テ諸種ノ毒藥ノ性質ヲ辨知スルノ後チ始
 メテ解毒ノ藥劑ヲ用キテ其害ヲ免カル、ヲ得
 ルニ至ル

渾テ人々皆惡ヲ為ス_一ヲ知ル而シテ之ヲ防ク
 ノ理ヲ發見シ得ル者ハ智識アル人ニ限レリ人
 智未タ足ラサルハ各自ノ利益ト公共ノ利益
 トヲ分離スル_一ヲ欲シ人智漸ク明カナルニ及
 ヘハ公衆ノ利益ハ即チ各自ノ利益ナルノ理ヲ
 解シ得ル者ナリ
 史ヲ繙ヒテ古ヲ照セハ上古未開ノ世ニ於テハ
 暴酷巧詐ナル罪犯ノ種類ハ更ニ近世ヨリ多キ
 ヲ覺_一未開ノ世界ハ各自固有ノ惡性ニ加フル
 ニ各種ノ惡トシテアラサルハ無キナリ試ニニ

看ヨ詐偽ノ摺文、假冒ノ讓真領地ヲ人ニ讓與ス
印地ト稱セハ何ノ時代ヲ以テ最モ多シトスル
 ヤ僧侶特リ書ヲ讀ム_一ヲ知リタル時代ヨリ多
 キハ無シ僧侶ハ自家ノ智識ノ秀逸ナルニ任セ
 俗人ヲ犬羊視シ之ヲシテ同等ノ智識ヲ得セシ
 △レハ容易ニ羈絆レ難ク制馭シ易スカラサル
 者トセリ又如此時代ニ於テ決闘ノ俗盛リニ行
 ハレ水火ヲ以テ罪犯者ト認ムル者ヲ拷訊シ所
 謂_一ツジメント、オス、ゴツト神判ト號シテ種
 ヲ奇恠ナル方法ノ行ハレタル所以ノ本ハ人ノ

理性未タ明カナラス真偽ヲ分判スルノ理ニ昏
 カリシカ致ス所ナリ
 又試ニニ人ノ思想ヲ書ニ筆シテ印行スルノ禁
 ヲ設ケタル國ト思想言論ノ自由ヲ與ヘタル國
 トヲ比較セヨ西班牙葡萄牙伊太利ハ未タ此自
 由ヲ得サル國ニシテ英吉利和蘭北亞米理加ハ
 此自由ヲ占ムルノ國ナリ而シテ人民ノ幸福ナ
 ル品行ノ善良ナル邦國ノ安寧ナル罪犯ノ少ナ
 キハ果シテ孰レノ國ヲ以テ勝レリト為スヤ
 蓋シ世人カ學問ト智識ヲ專有獨占スルノ政體

ヲ設立セル者ヲ稱讚スルハ甚タ謂レ無キナ
 リ往昔埃及及ノ僧侶印度ノ婆羅門パラゲ南亞
米理
 在リ加ニシエスウキト等此徒ナリ彼等ノ功ハ其
 制ニ從テ政ヲ施ス者ヨリシテハ頌讚スヘシト
 雖其政ニ從順スヘキ被治者ヨリシテ之ヲ視
 レハ毫モ賞美スヘキ所アルナシ如此宗教政
 治ノ下ニ在ルノ民ハ從順ニシテ靜謐ナルト或
 ハ之レアラン幸福ナルトハ未タ決シテ之レア
 ラサルナリ如此人民ニシテ猶ホ且ツ幸福ナリ
 ト云ハ、則チ卑屈賤劣威壓暴威ヲ以テ民無用

ノ義務サハルヲ得サルヲ遵奉セ人民ヲ疲勞セシムル
 一 身ヲ困メテ規則ヲ遵奉スル一恆子ニ悲哀ノ
 念ヲ抱カシムル一 等ハ人ノ幸福ヲ妨ケサル者
 ナリト云ト異ナル無シ余ハ之ヲ信スル一 能ハ
 ス
 是等ノ政府ハ人民ヲシテ生来ノ愚昧ヲ保持セ
 シムルヲ以テ其目的ヲ達セント欲シテ成ラヌ
 且ツ民間ニ偏固執拘ノ弊ヲ萌生シ誤謬ノ意見
 ヲ流布ス其為政治家ハ概子自家ノ制定セル狹隘
 ニシテ瞻小ナル法則ノ為メニ遂ニ其身ヲ亡ホ

スニ至ル常ニ人民智識ノ進歩ヲ妨クル制度ニ
 依テ治メラル、陋劣ナル國ハ遂ニ之ヨリ優等
 ナル國ノ并吞スル所トナルヲ免カレス其人民
 ノ制馭シ易キヲ欲スルカ為メニ人民ヲシテ愚
 ヲ守ラシムルノ國ハ能ク父ノ言ニ聽從セシメ
 シカ為メニ小兒ヲ教ヘスレテ養育スルト同シ
 ク敵人ノ之ヲ侵掠スル一 太々容易ニシテ一回
 外敵ノ征服スル所トナレハ復輒チ其新主ニ服
 從シテ毫モ之ニ抵抗スルノ氣カアル一 ナレ
 論者ハ曰ク政府カ學問ノ制度ヲ設クル所以ハ

敢テ斯氓ヲシテ無智ナラシメント欲スルニハ
非サルナリ如何ナル政府ト雖正學問知識ノ人
世ニ必要ナルコトヲ知ラサルハナシ唯政府ノ恐
ル、所ノ者ハ出版ノ自由ニアリ政府ハ素ヨリ
學術上ノ著書ヲ出版スルコトヲ妨ケス唯名教ヲ
害シ世人ヲ煽惑スルノ書籍ハ一回之ヲ公布ス
ルヤ其害ヲ防クニ由シナキ者ナルカ故ニ之カ
流播ヲ制止スル豈其理由無シト云フ得ンヤ又
有害ノ著書ヲ刊行セル者ヲ罰スルキハ他人ノ
再ヒ其輩ニ倣ハント欲スル者ヲ制止スルノ効

カアリト雖正寧口検査、法ヲ設ケテ刊行スル
前ニ有害ノ書ヲ禁止シ以テ害惡ノ泉源ヲ塞サ
クノ効アルニ若カサルナリト
出版ノ自由ハ固ヨリ不便無キニ非ルナリ然レ
正此自由ヨリ生スルノ弊害ハ検査法ヨリ生ス
ル弊害ノ大ナルニ比較スヘキニ非ス
夫レ検査法ヲ設ケテ人ノ精神ヨリ發生シテ文
章上ニ現ハル、者ノ是非利害真偽美惡ヲ判決
スルノ職ヲ掌トル者ハ希世ノ才非凡ノ識ヲ兼
備シ真理トシテ洞通セサルコト無ク喜怒哀憎ノ

為メニ移動セラレサル人ニ非レハ不可ナリ而
シテ如此ノ人ハ常ニ之ヲ求メテ得ヘキ者トス
ル乎ロツクレブニツトニユートント雖正恐ク
ハ敢テ此任ニ當ルヲ肯セサルヘシ而シテ今
此輩ヲリ下タレル人ニ任スルノ權力ハ如何ナ
ル者ソ動モスレハ偏頗ナリ易ク動モスレハ不
公平ナリ易キ性質ヲ具有スルノ權カナラスヤ
検査官ハ如何ナル者ソ即チ擅斷ノ權ヲ有シ且
ツ為ニスル所アルノ裁判官ナリ而メ其審判ノ
法タル隱察ニ之ヲ行ナヒ答辯ヲ聞カスレテ案

ヲ定メ上告スルヲ許サ、ルノ審判ナリ若シ公
然刊行以前ノ稿本ヲ検査スレハ即チ刊行スル
ト均シキ結果ヲ為ス故ニ検査ハ必ス隱察ナラ
サルヲ得ス而シテ隱察ノ審判ハ必ス弊害ノ生
スヘキ源アリ
検査ヨリ生スル害ニ至テハ抵至スル所ヲ知ラ
ス故ニ其害ノ大小ヲ測リ知ルヲ能ハス但シ人
心諸種ノ進歩ヲ防止スルノ外ニ非ルナリ凡ソ
新且ツ切ナル真理ハ其新且ツ切ナルカ為メニ
多少ノ抗敵者アルモノナリ而シテ新説ノ真純

ニシテ要用ナルヲ知リ先入ノ偏見ノ為メニ
覆蔽セラレサル人ハ十中一ヲ得難シ検査官ニ
シテ幸ニ斯種ノ人ナリトセンカ其刊行ヲ禁止
セス新發明ノ真理ヲ出版セシムルモ自家ノ光
榮アルヲ無シ而シテ其一方ヲ顧ミレハ自己ハ
職務ヲ等閑ニスルノ罪ニ中テラレ其身ヲ危フ
スルノ懼レアリ故ニ已ムヲ得ス凡常ノ思想外
ニ出ル者アレハ則チ之ヲ禁シ高尚ナル論理ア
レハ則チ之ヲ壓倒セサルヲ得ス況ヤ凡庸ノ俗
吏之カ検査官タルニ於テヲヤ概シテ刊行ヲ禁

止スル時ハ毫モ危険ヲ冒カスヲ無ク之ヲ許可
スルモ其身ヲ危フセサルヲ無シ然則禁止ノ
為ニ害ヲ被ムル者ハ検査官ニ非スシテ真理ノ
三獨リ其害ヲ被ムリ人間ニ行ハル、トヲ妨ケ
ラル
若シ人ノ精神ノ進歩ヲシテ全ク官吏ノ好惡ス
ル所ニ一任シタランニハ今日我輩ノ智識ハ果
シテ何等ノ點ニ在ル可キカ宗教法制道德共ニ
懵懂トシテ昏霧中ニ在ラン是等ハ是尋常ノ議
論ニシテ亦贅言ヲ要セス

真ニ書籍出版ノ公平ナル検査官タルヘキ者ハ
 公衆ヲ除クノ外アルヘカラス公衆ハ善ク假虛
 有害ノ説ヲ看破シテ之ヲ賤斥シ要用ナル發明
 ハ克ク之ヲ勸奨ス出版自由ナル國ニ於テ未タ
 嘗テ有害ナル著述カ世人ノ輕悔ヲ被ラサルハ
 無シ而シテ政府言論ヲ羈束スル最モ嚴密ナル
 國ニ於テハ却テ世人ノ陰ニ著述者ニ寬假スル
 事多ホキモノナリ

第三章

罪ヲ犯サント欲スルノ意思ヲ間接ニ豫

防スルノ法

法律ハ身カト智カト思想上トニ行ハル、ニ非
 レハ勢カナキ者ナルヲハ既ニ前ニ説ク所ノ如
 シ間接ニ身カヲ奪却スルノ方ト人ノ智識ヲ得
 ルヲ妨クルノ法ハ害多クシテ益少ナキヲハ
 既ニ其理由ヲ説キ示セリ然ラハ有益ナル間接
 ノ豫防法ハ人ノ思想ニ干係スル者ノミニ止マ
 ル是人ノ性情ヲ操ルニ在リホレリスノ詩ニ人
 ハ善ヲ見テ之ヲ可認ス而シテ自ラ行フニ至テ
 ハ惡ニ從フト言ヘルハ能ク人情ニ達セル者ト

云へし今マサニ如此心内兩岐スル所ノ者ヲ制
 馭シ得へキ方法ヲ説キ併セテ人ヲシテ所行ヲ
 為サシル所以ノ因由相離反スル者ヲ滅殺スル
 ノ方法ヲ述フヘシ蓋シ此因由ノ相離反スル所
 以ハ立法者ノ不注意ニ因テ天然ニ可トスル者
 ト政界上ノ可トスル者ト名教ノ可トスル者ト
 宗門ノ可トスル者トノ際ニ於テ互ヒニ相乖背
 シ相撞着セシムルニ由レハナリ若シ立法者ニ
 シテ此各種ノ權カヲ用キテ同一ノ目的ヲ達ス
 ルトニ其カヲ協戮セシムルヲ得ハ人性各種ノ

知能ハ悉ク共同レテ分歧スルトナク諸惡ヲシ
 テ其踪跡ヲ絶タシムルトヲ得へし假令此目的
 ヲ達シ得可カラサル際會ニ於テモ兎ニ角勸善
 ノ因由ヲシテ誘惡ノ因由ニ比スレハ其効力多
 カラシムルヲ要ス 勸善誘惡ノ因由ハ卷一
 第八章(廿四葉)ニ詳ナリ
 人ノ意想ヲ制馭スル間接ノ方法ハ之ヲ問題ニ
 分チ追次例ヲ掲ケ其問題ノ分解ヲ示スヘシ
 第一有害ノ欲心ヲ撓メ公利トナルヘキ悅樂ニ
 其心ヲ傾ムカシムルト
 第二人ノ所欲ヲ遂ケシムルニ之ヨリシテ害ヲ

生スルヲナカラシムヘキ措置ヲナス

第三惡ヲ犯カスヲ勸誘スル所以ノ者ヲ除去スル

第四誘惑ノ力大ナル事項ニ就テハ其責任亦從テ之ヲ大ナラシムル

第五誘惑ノ事項ニ迷フノ情欲ヲ減スル

第六罰ヲ恐ル、ノ心益深キニ至ラシムル

第七容易ニ罪惡ノ事情ヲ偵察シ得ルノ措置ヲ為ス

第八多數ノ人ニ與フルニ罪惡ヲ未然ニ制止ス

ル所ノ直接ナル利益ヲ以テスル

第九容易ニ犯罪ヲ發覺シ得ルノ方便ヲ設クヘキ

第十犯者ノ遁走スルヲシテ容易ニ為スヘカラサラシムル

第十一逮捕處刑ヲシテ可及的必然ナラシムル

第十二主罪ヲ防カンカ為メニ從罪ヲ禁スル此等ノ方法タルヤ其目的トスル所ハ必單一ナル者ナリ若夫仁愛ノ心ヲ長養シ榮養ヲ貴フノ

心ヲ勸奨シ若クハ宗教ノ力ヲ假リ教育ノ力ヲ用ユル方法ノ如キ一般ニ干渉スルトハ更ニ論出スル所アラシ

第四章

有害ノ欲心ヲ矯メ其心ヲシテ公利ト為ル可キ悦樂ニ傾カシムルト

直接ノ法令ノ目的トスル所ハ有害ノ欲心ヨリ生スル害惡ニ對シテ禁令ヲ設ケ刑罰ヲ備ヘ以テ其欲ヲ控制スルニ在リ間接ノ方法ニ於テハ害ノ少トキ欲心ノ勢力ヲ増シ以テ有害ノ欲ニ

抵抗セシムルニ在リ

此事ヲ成サントスルニハ二個ノ思考スヘキ條件アリ即チ勢力ヲ殺クトテ要スル欲心ト其勢力ヲ殺ク方便トヲ考究セサルヘカラス

有害ノ欲心ハ之ヲ三種ニ分ツ第一有毒心腸第二酒欲第三怠惰心

此三種ノ勢力ヲ殺カンカ為メニ施スヘキ方便ヲ亦分ツテ三種トス第一撲實ノ心ヲ勸ム第二人ヲ強ヒテ怠惰ニ陥ラシムルトヲ避ク第三酔ヲ促スノ性無キ飲料ヲ進メ以テ酔性アル飲料

二代ユ

讀者ハ右ニ掲クル有害欲心ノ種類必キヲ見テ
 或ハ之ヲ恠ム者アルヘシト雖モ人心ニ抱藏ス
 ル諸欲ノ中純然害ノミニシテ益アラサル者ハ
 太夕少ナシ何程ノ欲ト雖モ善惡兼除スルヲ要
 セサル者ナシ亦全ク其本根ヲ拔除スルヲ要
 スル者ハ未夕之アラス往昔天使カブリールカ
 馬哈嘿ヲシテ天帝ノ預言者タラシメント欲セ
マホソット
 レ時馬哈嘿カ心臟ヨリ諸惡ノ種因ヲ包裹セル
 所ノ黒點ヲ抽出セリト云然レモ不幸ニシテ通

常衆人ノ心臟ニ於テハ此抽去術ヲ施スル能ハ
 ス有害ノ種ト善良ノ因ハ相混合シテ得テ分拆
 ヲ施スヘカラス人性ノ諸欲ハ之ヲシテ所欲ア
 ラシムル因由アルニ依テ存在スルナリ而シテ
 其因由ナル者ハ樂ヲ享ケ害ヲ避ケルニアリ故
 ニ諸ノ樂諸ノ害ハミナ人欲ノ因由ナリ而シテ
 此因由ヨリ發生シ来ル所ノ結果ニ至テハ最モ
 善良ナルアリ最モ害惡ナルアリ千殊萬別之ヲ
 豫知スルヲ能ハサル者タリ例ヘハ菓木ノ如シ
 園丁カ注意ノ精疎風雨ハ多寡寒暖ノ適否等ニ

由リ或ハ惡業ヲ結ヒ或ハ美實ヲ收ハ純粹ナル
慈善ノ心ト雖モ專ラ一事ニ之レ用キ或ハ其使
用ノ方法ヲ誤ルルハ大害ヲ萌生スルヲアツ自
負ハ心ハ時トシテハ害ヲ生スト雖モ若シ此心
ヲ絶去スルハ人生一日モ世ニ過活スルヲ能
ハス禍心也者ハ其害アルニモ關ラス他人カ己
レノ利益ヲ侵掠スル時ニ方テハ此心ニ由テ以
テ自衛ノ道ヲ成ス然レハ人心ニ含藏スル所ノ
欲情ハ皆人間ノ利便ヲ為ス機關ノ一部ナルカ
故ニ之ヲ拔除シ盡スヘカラサル者ナリ唯其勢

カノ弱カラント欲スル者ハ之ヲ強クシ其力ノ
強キニ傾キ易キ者ハ之ヲ弱クスルヲ務ムレハ
無害有益ノ權衡ヲ維持スルヲ得ヘキトリ例
ヘハ善ク耕ス者ノ水ヲ田ニ導キ其水ヲシテ溢
レヌ涸レサラシムルト一般ナリ
醉性アル飲料ヲ欲スル心ハ全ク之ヲ除キ去ル
モ害アラサル者ナリ有毒心腸即チ禍心ナル者
ハ敵ノ侵辱ヲ防キ自衛スルタメニ要用ナル者
ナリ若夫勞ヲ惡クニ逸ヲ好ムノ心ハ自家惡性
アル者ニ非スト雖モ閑散無聊ナルハ動モス

レハ有害ノ欲心ヲ發生スル者ナルカ故ニ之レ
怠惰心ヲ以テ有害ノ欲心中ニ措クヘキ由縁ト
ス抑此三個ノ欲心ハ之ヲ抑壓スルヲ要用トス
假令之ヲ抑壓スルハ怠惰心ト禍心トハ全ク之
ヲ除却スルヲ能ハサル者ナルカ故ニ其利便ナ
ル部分ヲ抑壓ノ為メニ失墜スルノ憂ナレ
間接法ニ就テ其第一方ハ既ニ前章ニ陳ヘタル
カ如ク無害ノ遊戯ヲ進ムルニアリ是則チ開化
ヲ進ムルノ術ナリ華蠻ノ習俗ヲ殊ニスル所以
ハ第一ニ其人民ノ激怒シ易キト否ト第二遊戯ノ

種類少キト否トノ二ニ在リ

野蠻人ハ既ニ衣食ノ料ヲ得タル後チハ其為ス
所當ニ鬪争、睡眠、逸居ノ外ニ出テス而シテ此諸
事ハ其一事ヲ為スヤ隨テ他ノ事ヲモ為スニ至
ル者ナリ例ヘハ其心閑ナル時ハ人ニ對シテ怨
讎ノ心ヲ抱キ易ク其身閑ナル時ハ飲酒ヲ欲シ
醉ヘハ則チ人ト争フ争ヘハ則チ怨ヲ結フ男女
情愛ノ如キハ之ヲ粉飾シテ優美ナラシムル
無キカ故ニ野蠻人ノ身ニハ其樂ミヲ覺ユル
鮮キヲ以テ之カ為メニ心ヲ用ユルヲ亦薄シ

社會ニ於テ政府也者ノ設立セラレタル後ニ於
 テハ人ト怨ヲ結ンテ之カ報復ヲ計ルルハ法律
 ノ保護ヲ借ル又鬪争ヲ以テ樂ミトナサント欲
 スルモ刑罰ヲ恐ル、カ故ニ之ヲ為スト能ハス
 又閑散無事ニシテ逸居スルトモ少シト雖氏醉
 性アル飲料ヲ欲スルノ欲ハ減却セサル者ナリ
 野蠻人トハ即チ漁獵ヲ業トスル民ノトニシテ
 漁獵ヲ業トスル民トハ即チ野蠻人ノ事ナリ夫
 レ漁獵ヲ業トスル所ノ民其獲ル所ヲ保存スル
 ノ方法ヲ知ルルハ之ヲ食料ニ供シテ盡キサル

際タハ逸居無為ニシテ日月ヲ消費スルヲ得
 閑化ノ邦國ニ於テハ其民ノ多分ハ各自ノ職業
 ニ従事シ勤動額ニ汗シテ漸ク其食ヲ得殆ント
 遑暇アルヲ無ク休憩睡眠ノ時間ヲモ多ク得難
 キモノナリ但シ不幸ニシテ酒ハ最モ繁忙ノ際
 ト雖氏之ヲ飲ムトヲ得休憩スル際ニハ猶ホ之
 ヲ飲ムトヲ得ル者タリ若夫貧窶ナル賤民ハ其
 酒錢ニ乏シキカ為ノニ己ムヲ得ス飲酒ヲ慎ム
 ト雖氏多ク勞役ノ價ヲ得ル職工ノ如キハ則チ
 其欲ヲ飲酒ニ縱ニスルヲ得富豪ノ民ニ至テハ

既ニ終日酒ニ耽ルヘキノ資アリ如是我觀野蠻ノ世ニ於テ上流ニ位スルノ民ハ戰鬥漁獵酒色ノ為ニ光陰ヲ消ス是中古封建時代侯伯ノ常態ナリ今ニ至テ其陋俗ヲ傳ヘ以テ開化ノ社會ニ波及セリ

夫上來説ク所ノ如クナレハ諸種ノ遊戯ノ必用ナルヲハ喋々ヲ須タスシテ明カナリ第一其遊戯ハ快樂ヲ與フルカ故ニ第二遊戯ノ快樂アルハ上ニ言フカ如ク危險ニシテ厭フヘキ惡習ニ傾クヲヲ控制スルカ故ナリ茲ニ云フ所ノ遊

戯トハ確然タル無害ノ證據アル者ヲ云フナリ之ヲ社會ニ流行セシムルヲハ則チ其幸福ヲ増スノ方便ナルカ故ニ法ヲ制スル人ハ須ク茲ニ注意シ自ラ如此遊戯ヲ勸奨スル能ハサルモ務メテ其障礙ヲ為サ、ラン、ヲ要スルナリ今左ニ遊戯ノ品類ヲ掲ケ其野鄙ナル者ヲ始メトシテ優雅ナル者ニ至ラン

第一種々ノ食料ト為スヘキ者ヲ勸メ耕園ノ術ヲ起シ以テ滋養分多キ菜蔬ヲ栽培セシム

第二茗茶咖啡ノ如キ醉性ヲ有セサル飲料ヲ流

行セシム深ク思ハサル人ハ茶咖啡等ノ物件ノ
 備身齊家ニ干與スルト云カ如キヲ見テ或ハ之
 ヲ惟ム者アラシカサレモ是等ノ物ハ醉性アル
 飲料ト能ク相競テ并立スル者ナルカ故ニ真ニ
 要用トス

第三衣服家什或ハ園池等ノ如キ者ヲ裝飾スル
 一ヲ誘進ス

第四嬉戲鬪牌等以テ閑ヲ消シ悶ヲ遣ルノ方ヲ
 誘進ス然レモ賭博ニ至テハ宜ク之ヲ禁スヘシ
 渾テ士女相會ニ圍樂以テ平穩ナル遊戯ヲ為ス

一ハ人類ノ痼疾タル無事ニ苦ムノ病ヲ去ルノ
 効アルナリ

第五音樂ヲ感リニス

第六演戲集會等ヲ流行セシム

余嘗テ警視副長アルジエンソン氏ニ聞ケル
 一アリレント「齋日十五日間演劇閉場ノ際巴
 黎斯府ニ於テ放縱淫樂ノ行ハル、一平常演
 戲開場ノ時四ヶ月間ニ於ケル者ヨリモ多ホ
 カリシト

第七學術文藝ヲ感シニス

右諸件ハ衣食住居ニ必要ナル諸件ト照較スル
 片ハ之ヲ名ケテ驕奢トス然レモ之ヲ用ユル
 其當ヲ得ル片ハ驕奢ハ翻テ德ヲ進ムルノ具ト
 ナリ惡ニ誘ハル、ノ憂ヒ無キ者ナリ
 此等ノ權道ハ古來之ヲ等閑ニ付セシニハ非レ
 比其之ヲ用キタルハ道德上ノ目的ヲ以テ用キ
 タルニ非スレテ政事上ノ目的ヲ以テ之ヲ用キ
 タルナリ即チ人民ヲシテ政府ニ向テ平和従順
 ナラシムルカ為ニシテ之ヲシテ相協和シ其勉
 カヲ増シ其德行ヲ進メ幸福ヲ享受セシムル為

ニ用キタルニハ非ルナリ

往昔羅馬ノ執政者ハ多ク意ヲ競馬曲馬ノ事ニ
 注ケリ是蓋シ人民ノ意ヲ悦ハシムルカ為メノ
 ミナラス且ツ之ヲシテ政治ニ意ヲ用キシメサ
 ル為メニセシ者ナリ

英國ノクロムメルハ棄世主義ヲ主張セシヲ以
 テ此方法ヲ用ユルヲ能ハス故ニ外國ト戰ヲ挑
 ムテ人民ノ意ヲ轉セシメタリ
 ウエニスニ於テハ政府ノ威權ヲ專ラニスル
 ヲ欲セシカ故ニ孛メテ嬉戲遊觀ヲ奨メタリ

天主教ノ行ハル、國ニ於テ時々祭式アルハ羅馬ノ競馬ト同一ノ目的ヲ達ス
 世ノ治術ヲ談スル人ハ皆祭日遊戯等ノ制度ヲ見テ壓制ノ羈絆ヲ弛メ人民ノ思想ヲ遊戯ノ事ニ轉セシメ以テ其心思ヲ政治上ニ注クヲ豫防スルノ術トス夫レ祭日遊戯ノ事タル初メ之ヲ設立セシ目的ハ大ニ殊ナリト雖其設立セラレタル後チニ前ニ云フ所ノ結果ヲ為スカ故ニ大ニ用ナラレ、トトハナレリ
 魯ノ彼得大帝カ其國政ヲ改革セシ時ニ方テ施

コセシ術モ亦此意ニ基キテ為セル者ナリ固ト魯西亞人ノ風俗タルヤ歐羅巴ニ似スシテ亞細亞人ニ類シ加之酒ニ耽ルノ陋習アリ帝其粗暴野鄙ノ風俗ヲ矯メンカ為メニ或ハ劇ニ過クルノ措置ヲ為セリ而シテ諸種ノ演劇集會及ヒ衣服ニ至ルマテモ悉ク歐洲各國ノ風ニ模倣スルヲ勸奨シ或ハ令ヲ下シ強テ之ニ倣ハシメタリ蓋シ魯人ヲシテ歐羅巴ノ風ニ模倣セシムルハ即チ其人ヲシテ開化セシムルノ捷徑ナレハナリ然レモ此改革ニ抗抵スル者モ亦多カリキ

魯人ハ外國人ヲ輕侮シ且ツ之ヲ憎嫉スルノ心
アルカ故ニ皆此改革ニ甘服セサリシト雖氏衣
服其他外觀ノ中外一樣ナルニ至リシ後チハ外
人ヲ疎隔スルノ心モ亦隨テ磨磷セリ是外面ノ
異様ナルヲ除却センカ為メニ内心ノ憎嫉心ヲ
モ并セテ除キタルナリ而シテ魯人カ歐洲人ノ
班列ニ加ハリシヨリ已來物トシテ彼魯民ノ為
メニ利益トナラサルヲ無シ

スカトランド 蘇格蘭英吉利及ヒ日耳曼ノ或部分ニ於テ日曜
日安息ノ法例ヲ恪守セシムルハ此政策ニ背ム

ケル者ナリ千七百八十一年ニ於テ定立セル法
律ハコロムウエルノ時代ニ適當セシ者ニシテ
今ノ時情ニ相應セサル者ナリ其法例タルヤ日
曜日ニ於テ遊戯スルヲ禁シタル者ニシテ其
結果タルヤ酒色ニ荒耽スルヲ除クノ外都テ
ノ遊戯ヲ禁遏スル者ト異ナルヲナシ是道德ヲ
教ユルカ為メニ却テ不品行ニ陷ラシムル者ト
云ヘシ日曜日ハ此法アルカ為メニ怠惰ノ日ト
ナリ隨テ諸種ノ滯逸蕩散ヲ促ス者ナリ
若シ此法ヲ設クルノ理アリトナラハ必ス左ニ

載スル所ノ二個ノ因由アルニ依ル者ト謂ハサ
 ルヲ得ス則チ一週六日間ニ於テ無害トスル所
 ノ遊戯モ第七日曜日ニ於テ忽チ其性質ヲ變シ
 テ有害トナル乎若クハ諸惡ノ原因トスル所ノ
 怠惰ナル者ハ却テ宗教ヲ保護スルノ功アル乎
 ノ二因由ニ外ナラス是太夕疑惟スヘキナリ
 余其理如何ヲ知ラス宗教ニ關スル人或ハ之ヲ
 説明スルヲ得シカ

「ニユゲ」トノ僧ノ撰メル奸兇人ノ傳中ニ於
 テ謂ヘル「アリ日ク兇人ノ始メテ其心ヲ惡

事ニ傾嚮スルハ渾テ日曜ノ齋日ヲ破リシニ
 依ルト余以為ク然ラス却テ日曜日ノ安息ヲ
 守リシニ依テ惡事ニ傾キシナリト云ハ、事
 實ト符合スルニ庶幾カラシ然ル所以ハ閑逸
 無事ニシテ囊中乏シカラサルモ酒肆ヲ除ク
 ノ外之ヲ費ヤスノ道ナキカ故ニ酒肆ニ過キ
 テ沈酔シ酔ヘハ則チ鬭争ヲ好シ其精神ハ癡
 鈍ト變シ健康ヲ傷ナヒ作業ニ懶ク資財ヲ浪
 費シ惡友ニ交リ遂ニ惡徒ノ社會ニ墮落シテ
 其生ヲ終フルニ至リシナリ

假令神勅ノ法令ナリト雖モ道德ニ害アル者ハ
 聽從セズレテ可ナリ政治上ノ律法ヨリ得ル所
 ノ結果ハ則チ確然タル證據ナラスヤ宗教ノ傳
 フル真道ナル者ハ固ト自然ニ背戾セルトニ基
 ケル者ナリ甲ハ余輩自家ノ耳目ヲ以テ之ヲ聞
 見シ乙ハ他人ノ口碑ニ傳フル者ニ據テ證トセ
 サルヲ得ス而シテ彼ヨリ此ニ傳來セル者ハ其
 傳兼スル毎ニ多少本来ノ真ヲ失フ者ナリ
 既ニ聖教ニ載スル者ナリト雖モ猶ホ此ノ如シ
 況ヤ日曜日ノ安息ヲ主張スル如キハ福音傳ニ

於テ之ヲ説カサルノミナラス其明文及ヒ教主
 躬行ノ例ト全ク相反セル者ナルヲヤ宗教ニ違
 カキフエ子ロンハ其末徒タル僧侶カ日曜日ノ
 安息ヲ恪守センコトヲ部内ノ人民ニ責メタルモ
 之ヲ叱斥シテ禮拜ノ終リタル後チニ人民カ舞
 踏遊戯スルコトヲ禁スルコトヲ望マサリント云ヘ
 リ
 斯ク云ヘハトテ決シテ安息日ヲ以テ害アリト
 云ニアラスマタ日ヲ定メテ禮拜スルヲ非トス
 ルニモ非ラス唯日曜日ニ方テ田圃ノ作業若ク

ハ無害ノ遊戯ヲ停止スルヲ以テ却テ犯罪ノ源ト為スヲ尤ムルナリ
 一週ニ一日無害ノ遊戯ヲ禁スルハ即チ一日ノ幸福ヲ人民ヨリ奪將スルト同シ何トナレハ快樂ヲ除クノ外更ニ幸福ナル者無キヲ以テナリ
 然レハ勞夫職工カ平素ノ勤苦ヲ慰スル為メノ僅少ナル遊戯ヲ理モ無キ事ニ依テ禁遏シ以テ宗教ノ名ヲ飾リ彼輩ヲシテ惡境ニ陷ラシムル法ヲ設クル所ノ政事家ノ所行ハ殘忍亦太甚シト謂フヘシ

夫レ人ニ害ヲ加フルニ二個ノ法アリ一ハ苦ヲ與フルナリ一ハ樂ヲ奪フナリ若シ苦ヲ與フルヲ以テ慘酷ナリトセハ其快樂ヲ奪將スルモ亦其可ナル所以ヲ知ラス是兩ツナカラ暴酷ノ所爲ト為スヘシ何トナレハ此所行ニシテ暴酷ナラストセハ他ニ暴ト呼ビ酷ト稱スヘキ者無ケレハナリ勿論余輩ノ茲ニ論スル所ハ遊戯ヲ禁スル法律ノ結果ノ可否ヲ言フノミ此法ヲ設クルノ主意ハ社會ノ利ヲ計リタル者ナルヲハ疑フヘクモアラスサレモ是レハ凡ソ事物ノ淵

源ヲ究メス空論ニ眩迷シ智愚ノ二中間ニ吟ヨ
 フテ一定ノ識見ナク世人ノ俗論ニ惑フテ能ク
 之ヲ制伏スルヲ無キカ致ス所ナリ而シテ之ヲ
 制法ノ通患トス是法ヲ立ツルノ趣意ハ如何ニ
 善良ナルモ其結果ニ至テハ甚シキ有害不仁ノ
 者ナリト断定セサルヲ得ス

凡ソ粗暴野鄙ノ風ヲ廢シ閑雅優長ナル舉動集
 會遊觀園池ノ修飾美術文學ヲ勸奨スルモノハ
 實ニ多幸ナル人民ト謂フヘシ人ヲ快轉ナラシ
 ムル所ノ宗教ト民ヲシテ互ヒニ信ヲ失ナハシ

ムルノ政府トハ最大ノ惡最大ノ有害ナル欲情
 ノ萌芽ヲ含藏スルモノナリ

刑法論綱卷之六

3010
39

37236

升
海
言
錄

者
不

一
海
岸
色
雜
片



